

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -108	2023/4/1	Time to Scrap LCS	LCSを除籍させる時がきた	Proceedings 2023/4/1	 失敗が判明しているLCSですが、とうとうこのような記事がプロシーディングス誌4月号に発表されました。文中で、かなり詳細な航続距離の数値やその他の性能が出ていて、参考になると思われます。	岩崎洋一
2023 -109	2023/5/30	US Navy Discloses 155mm Advanced Gun System's Preliminary Fate	米海軍、155mm先進砲システムを予備役とする運命を開示	Naval News 2023/5/30	 米海軍がZumwalt級DDGに搭載している155mm先進砲システムを撤去し、代わりに12発の通常型精密攻撃極超音速ミサイルを搭載、先進砲は陸上保管する決定をしたそうです。長射程陸上攻撃用砲弾(LRLAP)の開発に失敗し、撃つ砲弾がなくなり(この砲はLRLAPのみ発射可能なのだとか)、使い道のなくなった砲の悲しい最期です。保管費用はどうするのか？	佐々木司
2023 -110	2023/5/1	Beware the Allure of Mission Modularity	ミッション・モジュールの魅力に気をつけよう	Proceedings 2023/5/1	 ミッション・モジュールに大反対の話かと思って読み進みましたが、やや穏健な反対論でした。LCSでは完全にコンセプトが破綻しましたし、デンマーク海軍のスタンフレックスが大成功しているという話も聞きません。この方式は、約30年以上という船体寿命を考えた場合に、モジュール側にも船体側にも、かなりの制約を与え、双方に妥協を強いることから、トータル・シップ・インテグレーションの考えから相応しくないと思います(個人的所見)。プロシーディングス誌5月号から。	岩崎洋一
2023 -111	2023/5/31	UK Details Delivery Timeframes And Capabilities For MROSS Ships	英国MROSS船の納期と能力に関する詳細情報	Naval News 2023/5/31	 ノルドストリーム事件を受け、海底安全保障の重要性を認識した英国が、商業用外洋支援船を購入し、多用途海洋監視船に改造しました。広い作業甲板、大型クレーンに加え、上部構造内の格納庫に船底開口(ムーンプール)を設け、ROVやUUVを直接発進揚収できるようになっています。英国海軍ではこのタイプの船を2隻保有し、浅海用と深海用に使い分けるようです。	佐々木司
2023 -112	2023/3/12	Fleet's material condition keeps getting worse, new INSURV report says	INSURVの報告によると、艦隊における搭載装備品の状態は悪化の一途をたどっている	Naval News 2023/3/12	 米海軍の検査調査委員会(INSURV)が艦種毎、機能領域別にシステムの可動率を数値化しました。表から、米海軍艦艇の可動率が思いのほか低いことが読み取れます。特に水上艦(空母除く)の可動率は低く軒並み70%台で、航空関連に至っては50%未満の年度もあります。構成品の信頼性が低いのか、満足な整備ができていないからなのか？我が海自はこうなってはなりません。	佐々木司
2023 -113	2023/6/3	Japan's New ASEV Ships Will Boast An Impressive 128 VLS Cells	日本の新型イージス・システム搭載艦は印象的な128発のVLSセルを誇示する	Naval News 2023/6/3	 VLSは128セルということなので、8セル1モジュールとすれば、16モジュールが装備される計算ですが、下の絵だと、どうも配置がおかしいような気がします。また、変な所から艦首波が発生しています。新しいイージス・システムはJ7.Bとのことですが、将来のバージョン改修で途方もない金額を請求されないか心配です。設計は装備庁が中心になってねじり鉢巻きでやっているのでしょうか、奇をてらうことなく、現有DDGの流れを継いで、部隊としての相互運用性を確保して欲しいと思います。	岩崎洋一
2023 -114	2023/最新版	Making the Case for the Soryu-Class as a Canadian Procurement Option	「そうりゅう」型をカナダの調達選択肢として主張する	CANADIAN NAVAL REVIEW VOLUME 18, NUMBER 3(2023)	 CANADIAN NAVAL REVIEWは、セントフランシスザビエル大学のブライアンマルルーニー政府研究所によって発行されている、海洋安全保障問題を研究する専門誌だそうです。本論文の正確さについての論評は避けさせていただきます。しかし、本論文はカナダの錚々たる海事、海軍関係有識者で構成された同誌編集部にて選考された優秀論文であり、詳細な調査、論理的考察に基づいた、高い説得力を持つものだと思います。本論文が、政治的に安定しているカナダ政府の意思決定において、如何なる影響力があるか、大きな関心が湧きます。今後、具体的な交渉等に発展した場合、双方に十分な意思の疎通が図られ、冷静沈着な判断が下されることを期待したいです。引続き、経過を注視して参ります。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -115	2023/5/26	Ukraine's Kinzhal intercepts should cool hypersonic hype	ウクライナによるキンジャール迎撃は極超音速の誇大広告に冷水を浴びせかける	Defense News 2023/5/26	 ウクライナ側の迎撃報告が正しいとするなら極超音速ミサイルは脅威にはならない、という主張です。	岩崎洋一
2023 -116	2023/6/12	HASC Agrees to Navy's Plans to Shed Littoral Combat Ships, Moves to Abolish CAPE	米下院軍事委員会は LCS の削減計画に同意、CAPECAPE (コスト・プログラム評価 室) 廃止に向け動き出す	USNI News 2023/6/12	 下院軍事委員会は、海軍が要求する除籍艦について、インディペンズ級LCS の3、4番艦を除籍させることは認めましたが、巡洋艦 2隻、ドック型揚陸艦 3隻については除籍を認めないとする修正条項を決定しました。驚くことに、LCS は、造船所を生かすために、今も 続々と 就役・建造が続いています。(巻末参照)	岩崎洋一
2023 -117	2023/6/8	Block V Virginia-class attack subs delayed 2 years due to staffing problems: GAO	Block V Virginia級潜水艦、人員問題で2年延期: GAO	BREAKING DEFENSE 2023/6/8	 米国GAOがVirginia Block Vの建造がさらに2年遅延することを指摘しています。米海軍では今後年間でVirginia級2隻とColumbia級1隻を建造するのを目標にしていますが、現状の建造基盤では難しそうです。原因は建造に必要な人員が25%不足していることにあるようです。雇用を大幅に増やして対応するのか、遅延を許容するのか、どちらも難しそうです。	佐々木司
2023 -118	2023/6/17	US attack sub that shipwrecked off China cannot enter for repairs	南シナ海で損傷した米攻撃型潜水艦は、修理に入ることが出来ない。	BulgarianMilitary.com 2023/6/17	 100億円を超える経費も要因の一つですが、造船所の工数不足のため損傷した損傷した潜水艦の修理が2026年まで出来ないようです。造修整備体制が揺らいでいます。我が国は大丈夫なのか。	川原梅三郎
2023 -119	2023/5/29	U.S. Naval Academy 2023 Graduation	アメリカ海軍兵学校卒業式	USNI News 2023/5/29	 2023年アメリカ海軍兵学校卒業式におけるオースティン国防長官の訓示 米国マサチューセッツ州アナポリスにある海軍海兵隊記念スタジアムで米海軍士官学校2023年クラスの卒業式が行われた。式典にはオースティン国防長官が参列し、卒業生を称えた。式典は4時間余りの長時間である中、新型コロナウイルスはもとより、厳しい士官候補生の試練を乗り越え、米海軍及び米海兵隊に新たな戦力として立ち向かう若人に対する並々ならぬ期待と希望を示された訓示の内容である。海軍兵学校における独特な用語も散見されるが、※印を付して簡単に捕捉した。リーダーシップについて再認識するうえでも参考になる訓示内容と思われる。なお、YouTube (https://news.usni.org/2023/05/29/video-u-s-naval-academy-2023-graduation) にも公開されている。	工藤悟
2023 -120	2023/6/7	Taiwan's Navy Caught Between Two Strategies to Counter Chinese Threat	中国の脅威に対抗するため、2つの戦略の狭間に立たされる台湾海軍	USNI News 2023/6/7	 台湾は、本格的な中国の侵攻に対処するためのアシンメトリック(非対称)な装備品か、日常の国境付近において大陸と対峙をするための伝統的な装備品か、で悩んでいるという記事です。(下線は記者。)台湾の兵器調達計画や、実態などが結構詳しく説明されています。	岩崎洋一
2023 -121	Proceedings Vol.149/5/1,443	Use Allies in Shipyard Modernization	造船所近代化の期間は同盟国(造船所)を使え	Proceedings Vol.149/5/1,443	 米海軍は世界情勢を受けて艦隊隻数の増勢を目指す一方で、造船所での維持整備の遅れに米国内造船所の近代化事業が重なり、米国造船基盤の脆弱性が顕在化している。本エッセイは、佐世保米海軍基地に勤務する海軍中尉がその問題解決として、日本や韓国の造船基盤を一時的な活用を提案している。最近、米海軍艦船の定期検査を日本国内造船所で実施するというニュースがあったが、その事情を推察できる。戦闘に関わらない輸送船等の海外建造の可能性も有りうる。	清水隆
2023 -122	2023/6/13	MADEX 2023: Hanwha Ocean Unveils KDDX-S Destroyer Design	MADEX 2023: Hanwha Oceanが KDDX-S駆逐艦のデザインを公開	Naval News 2023/6/13	 韓国で開催された軍事展覧会MADEX2023においてHanwha Oceanが次世代駆逐艦KDDX-Sのスケールモデルを公開しました。前部側はZumwalt、中後部はもがみ型のパクリのような感じです。5インチ砲はまさにZumwaltのAGSそのまま、艦橋前にはレーザー砲もあります。模型を作るのは簡単ですが果たして近い将来実現するのか、その前に本案が採用されるのか？	佐々木司

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2023 -123	2023/6/20	Titanic Expedition	Titanic探検隊	OceanGate社HP 2023/6/20	 2023.6.20、カナダ沖合の大西洋で沈没したタイタニック号を観光する潜水艇が消息を絶ったというニュースがありました。この潜水艇、所有会社によるとタイタニック号が沈没している水深4000mまで潜航し、様々な学術調査等を行うために用いられているようです。ニュースにあるような、大金3500万円かけて深海をツアーするだけの観光潜水艇ではなさそうです。	佐々木司
2023 -124	2023/6/14	Meet Amelia, the US Navy's conversational AI tech-support tool	米海軍の会話型AI支援ツール「アメリカ」と会おう	Defense News 2023/6/14	 艦上での不具合対応に、このようなツールが使われる日がやってきました。	岩崎洋一
2023 -125	2023/6/22	Titan Submersible Debris Found Near Titanic Wreck; Navy Sensors Detected Implosion	潜水艇Titanの破片をTitanic残骸近くで発見；海軍のセンサーが圧壊を検知	USNI News 2023/6/22	 大西洋で消息を絶った潜水艇TitanはTitanic沈没現場付近で圧壊したようです。米海軍のSOSUSが現場付近で圧壊音を聴知していたそうです。以前から船殻構造強度に疑問がもたれ、訴訟まで起こされながら一般客を乗せて深海観光をするのはあまりに無謀と言えます。急速潜航浮上するわけでもないのに数年で船体が圧壊するとは余程船殻強度に問題があったのでしょうか。	佐々木司
2023 -126	2023/5/24	DARPA's silent MHD magnetic drives for replacing naval propellers	海軍のプロペラを代替するためのDARPAの静粛電磁流体力学(MHD)推進器	Naval Technology 2023/5/24	 やまと1は、超電導推進によって自立航行に成功した初めての船であったが、その効率の悪さから実用に至らなかった。神戸の海洋博物館に野外展示されていたが、現在は撤去・解体されている。今後の効率向上策など研究開発動向に注目したい。	高木康之
2023 -127	2023/6/1	Navy Information Warfare Needs Requirements Officers	米海軍の情報戦(IW)はリクワイアメント・オフィサー(RO)を必要とする	Proceedings 2023/6/1	 リクワイアメント・オフィサー(RO)とは米海軍独自の職種・特技で、海軍作戦部の中の、特に水上艦や潜水艦、航空機を扱う幕僚部(N9)のスタッフとして、部隊やNAVSEA、海軍省などとの間で運用要求や要求性能に関する調整を行う任務を持つ士官集団のことをいうらしいです。この論文は、情報戦分野においても、このROの集団を構築せよと主張するものです。海上自衛隊では艦艇や航空機には運用要求や要求性能を定めます。通信・情報の分野でも当然同じようなことはやっていると思いますが、情報戦やサイバー戦となるとどうでしょうか？エッセイコンテストで最優秀賞をとった作品ということで、ご紹介します。米海軍の人事や職種・特技制度に具体的に切り込んで説明しています。プロシーディングス誌6月号から。(下線は記者)	岩崎洋一
2023 -128	2005/10/1	NAVAL SHIPS' TECHNICAL MANUAL CHAPTER 096 WEIGHTS AND STABILITY	同左	NAVAL SHIPS' TECHNICAL MANUAL 2005/10/1	現役のご依頼を受け、潜水艦設計に関する論文等から、第1報として、重量、浮量、静的復原性、重量マージンなどに関連した内容について、以前ご紹介しましたが、その第2報です。今回の内容は、最初の文献の参考文献(第2文献)の米海軍技術資料NAVAL SHIPS' TECHNICAL MANUAL CHAPTER 096 WEIGHTS AND STABILITY(最新版)のうち、船舶共通の部分と潜水艦設計に関係ある部分であります。(第1報から大変時間が経過してしまい申し訳ありません。)	本山泰之